

平成 30 年 4 月 27 日現在

機関番号：34304

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26380445

研究課題名(和文)近世・近代ハンブルクの貿易からみたヨーロッパ経済の変貌

研究課題名(英文)Transformation of European Economy in terms of Hamburg's Modern Trade

研究代表者

玉木 俊明(TAMAKI, Toshiaki)

京都産業大学・経済学部・教授

研究者番号：10288590

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：ハンブルクは、ヨーロッパを代表する貿易港である。1618-1868年の長期間にわたり、中立を維持した都市でもあった。そのためさまざまな商品がハンブルクに輸入され、そしてハンブルクから再輸出された。さらにハンブルクはヨーロッパ最大の製糖所がある都市であったので、さまざまな砂糖が入ってきた。本研究では、価格表を使い、ハンブルクに輸入された価格の変動を分析し、同市はヨーロッパの戦時中にも輸入したことを示した。

研究成果の概要(英文)：Hamburg was one of the most important port cities in Europe. Hamburg maintained neutrality for a long period from 1618 to 1868. Hamburg imported and reexported many commodities. Hamburg was, moreover, a city that had the largest number of sugar refineries so that it imported much sugar. By using price current, This study analyses price change of imported goods to Hamburg and shows it imported goods during wartime in Europe.

研究分野：経済史

キーワード：ハンブルク 中立 砂糖 コーヒー 製糖所 エルベ川 交易ネットワーク バルト海

## 1. 研究開始当初の背景

ハンブルクは近世ヨーロッパでもっとも取引量が多かった貿易港であったにもかかわらず、これまであまり研究が進んでいなかった。

そのようなハンブルクの貿易を考察することにより、これまでのヨーロッパの貿易像とは違う観点を提示したいと考えた。

ハンブルクは、ヨーロッパの多数の国々が関係した中立貿易都市であった。したがって、ハンブルクを中心に研究することで、これまでとは違った角度からヨーロッパ経済史をみていくことができると考えられる。

しかし、このように重要な貿易都市ハンブルクであるにもかかわらず、ヨーロッパにおいても日本においても、研究は進んでいない。それは、いまなお経済史では一国史観が中心であり、国家を超えたネットワークの研究はあまり進んでいない。本研究の意義はそういった経済史の研究の限界を越え、ヨーロッパ全体の商業史・経済史に関する新たな視点を提示しようとする点にあった。

## 2. 研究の目的

現在のヨーロッパ商業史の研究動向では、一国史ではなく広大な商業ネットワークの研究が中心になりつつある。

ハンブルクは、そのような商業ネットワークのハブの一つだと考えられる。それは、長期にわたり中立を維持しただけではなく、多様な商人が訪れた都市だからである。

その具体的様相を、価格表と二次文献を使うことで、明らかにしたいと考えた。

すなわち、貿易都市都市としてのハンブルクの様相を、人的ネットワークと商品の流通拠点という面から明らかにしていくことを目的とした。

## 3. 研究の方法

ハンブルクには多数の商品が流入しており、それは価格表にある程度判明する。その長期的変動をみることによって、世界の商品がこの都市にどの程度流入していたのかをみていこうとした。さらに、それをこれまで出版された二次文献を使って補完しようとした。

さらにハンブルクの特徴を、他都市との比較・関係を重視することで、明らかにしようとした。

## 4. 研究成果

(1) ハンブルクは中立都市として有名であり、ヨーロッパの国々が戦争をしていた時代に、ハンブルクの重要性は大きく増大した。

それを、ハンブルクの「価格表」そのデータ入力はまだ途中の段階にすぎないが、ハンブルクには一貫してヨーロッパ、さらにはヨーロッパ外世界からの商品が流入していたことがわかってきた。

(2) ブラジル産砂糖の市場は、フランスやイタリアを含め、多数存在した。輸送先の中心は、アントウェルペンからアムステルダムへと変化し、1609年以降、ブラジル産砂糖の半分以上を吸収した。

(3) スペイン領中南米の砂糖輸出は、むしろ19世紀に重要になる。たとえば1820年代には、キューバからハンブルクに大量の砂糖が流入している。さらに1840年代になると、キューバは世界最大の砂糖生産地となった。キューバの奴隷貿易数が大きく上昇するのは、このようなことが原因だと考えられよう。さらに19世紀中頃には、キューバには約1,500の製糖所があり、甜菜糖を合わせても、世界の砂糖生産量全体の25パーセントを占めていた。その多くを輸送していたのは、アメリカ船であり、そのなかには反奴隷州の船も含まれていた。ハンブルクは、ヨーロッパの貿易港のなかで、その輸入量が二番目に多かった都市だと推測される。

(4) フランスが輸入した砂糖の多くは再輸出された。この点は、フランスは、輸入された砂糖の30-40パーセントを食したにすぎない。これに対しイギリスは、約75パーセントを国内で消費した。フランスの砂糖はヨーロッパ各地に再輸出され、なかでもハンブルクへの再輸出量が多かったことが知られる。ハンブルクには多数の製糖工場があり、さらにフランスから追放されたユグノーの亡命地として重要だったこともその理由となる。

(5) フランス領のアンティル諸島からボルドーをへてハンブルクに送られていた砂糖は、フランス革命戦争の勃発により、イギリスへと中継地点を替えた。それは、まずアンティル諸島からアメリカに送られ、そこからアメリカ船でイギリスに輸送され、さらにハンブルクに送られたと考えられる。もちろん、イギリス植民地から直接イギリス本国に輸送され、そこからハンブルクに再輸出されたものもあった。だが、それらの具体的な比率はわからない。それが、今後の研究課題として残されている。

(6) ハンブルクが北方ヨーロッパにおける重要な金融市場であったことを考慮するなら、ロンドンとアムステルダムだけではなく、ロンドンとハンブルクの決済について言及する必要がある。

スウェーデン経済史家のクルト・サムエルソンは、スウェーデン商家の信用取引についての研究をした。彼の研究によれば、アムステルダムやハンブルクの商人が手形割引仲買人 discount broker として活躍することがわかる。また、イングランドへの鉄輸出が多かったにもかかわらず、ロンドンへの振出手形あまりみられなかった。

18世紀において、ストックホルム最大の輸出品は鉄であり、その輸出は数社によって独占されていた。その決済が、ロンドンやアムステルダムだけではなく、鉄輸出をしてい

なかったハンブルクでもおこなわれていた。このようなハンブルク金融市場の存在が、多角貿易決済機構存在の傍証になるであろう。そして、為替が利用されていたのである。しかも、おそらくロンドンからハンブルクへと、地金は輸出されていなかった。

(7) ヨーロッパ商業の決済においては、18世紀初頭はアムステルダムが圧倒的に優位だったのが、次第にロンドンとハンブルクを加えた三都市を基軸とする多角貿易決済システムに変化したと考えるべきではないだろうか。17-18世紀の重商主義時代に、国際貿易の決済システムはこのように変化したと考えられよう。18世紀になり、ヨーロッパ外世界との貿易が増えていったのだから、アムステルダムだけではなく、ロンドンとハンブルクという都市も、国際貿易の為替決済の中心となったものと思われる。

もしこれらの都市のうち一都市が戦争に巻き込まれたら、ヨーロッパの決済機能は大きく低下する。それをふせぐリスクヘッジとしてもこのシステムが有利に作用したのである。ヨーロッパ商業は、戦争による影響を回避するためのさまざまな方法を考案していた。

この時代のヨーロッパの決済システムについては、ロンドンを中心とするスパーリングの多角貿易決済の研究が有名である。しかし彼の研究は、平時であればおそらく正しいがひとたび戦争が起き、アムステルダムがそれに巻き込まれたなら、ハンブルクへの送金が増えた可能性も十分にある。この点は、今後の研究課題として残されるべきだと考えられる。

(8) ラテンアメリカ諸国のほとんどは、現在もなおスペイン語かポルトガル語が公用語の国である。ナポレオン戦争が終結する以前、その輸出品は宗主国であるスペイン、ポルトガルに輸出されていたが、戦後、ロンドンが輸出の中心となり、その次にハンブルクが位置した。宗主国との経済的紐帯が弱まったことが、旧スペイン領諸国が次々と独立していった要因の一つであろう。

このように、貿易港としてのハンブルクは、ラテンアメリカの独立運動にも大きな影響を及ぼしたのである。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

1. Toshiaki Tamaki, “Strengthening industry-university cooperation in the current age of high mobility: A proposal for developing cooperation between Vietnamese and Japanese Universities”, *History, Culture and Cultural Diplomacy Revitalizing Vietnam-Japanese Relations in the New Regional and International Context*, 2014, pp.117-131. 査読あり

2. Toshiaki Tamaki, “Japanese Economic Growth during the Edo Period”, 『京都産業大学経済学レビュー』創刊号、2014, pp.255-266. 査読なし

〔学会発表〕(計14件)

1. 2017年11月24日 玉木俊明 「ユーラシア史研究への新しい視角」私立大学戦略的基盤形成支援事業「近代日本の人文学と東アジア文化圏」シンポジウム。

2. 2017年10月20日 Toshiaki Tamaki and Kenji Sakano. “Swedish Trade in Early Modern Period, 1721-1815: The Rise and Fall of ‘Bilayer Trade’”, at Sound Toll Registers Online 7th Conference, in Orelon France.

3. 2017年10月6日 Toshiaki Tamaki, “China’s “Is the Hegemony moving from the United States to China?: A Historical Perspective” at Belt and Road Initiative: Opportunities and Challenges” in Hanoi,

4. 2017年9月7日 Toshiaki Tamaki, A Brief History of Economic History in Japan after World War II” at 12th Sound Economic History Workshop, University of Jyväskylä,.

5. 2017年7月2日 Toshiaki Tamaki, “European Maritime Expansion to Asia: From Portugal to the British Empire” at Globale Handelsraum und Handelsrouten (Teil 2), Tagung der Gesellschaft für Überseegeschichte 30. Juni bis 2. Juli 2017 in Bamberg,

6. 2016年9月15日 Toshiaki Tamaki and Henna-Rikka Pennanen, “The Moomins and Totoro as agents of soft power”, at Interaction, Influence and Entanglement: 100 years of Finnish-Japanese Relations and Beyond (Oulu University)

7. 2016年1月24日 玉木俊明 歴史学研究会近現代史部会 『海洋帝国交流史』の合評会 レスポンス

8. 2015年11月28日 玉木俊明 「大西洋経済形成と人々の移動—黒人奴隷貿易を中心として」2015年度社会経済史学会中四国部会大会ラウンドテーブル

9. 2015年10月29日 Toshiaki Tamaki and Kenji Sakano, “Swedish Trade in Early Modern Period, 1721-1815: The Rise and Fall of ‘Bilayer Trade’ at University of Jyväskylä, Seminar .

10. 2015年8月7日 Toshiaki Tamaki, and Yuta Kikuchi, “The Economic Rise of Northern Europe and The Development of Coastal and River Trade with rural Areas With Special Reference to Hamburg and the Elbe” .at XVIIth World Economic History Congress Kyoto, at The contribution of rural coastal areas to international trade networks in the early

modern period Organized by Werner SCHELTJENS, Markus A. DENZEL, Toshiaki TAMAKI

11.. 2015 年 8 月 5 日 Toshiaki Tamaki, " Mercantilism as State Policy and Merchant Activities of International Merchants: A proposal from Global Perspective " at Mercantilism and Cameralism - New Approaches and Reconfigurations, Lessons for Development, Explanations for Divergence? Organized by Philipp Robinson ROESSNER and Toshiaki TAMAKI, at XVIIth World Economic History Congress Kyoto,

12. 2015 年 8 月 3 日 Toshiaki Tamaki, Commentator of " Importance of Trade, Conflicts, and Neutrality for Small and Medium Powers from the 18th to the 20th Centuries " organized by Jari A ELORANTA, Peter HEDBERG, Maria Cristina MOREIRA, Eric GOLSON, at XVIIIth World Economic History Congress Kyoto.

13. 2015 年 3 月 20 日 Toshiaki Tamaki, " The development of the Pacific Economic Belt, Urbanization and Internal Migration in Japan after World War II: Comparative Perspectives to Vietnam ' s Case " , at International Conference: Globalisation, Modernity and Urban Change (in Hanoi)

14. 2014 年 4 月 23 日 Toshiaki Tamaki, and Yuta Kikuchi " The Commercial Significance of Hamburg: from 1730s to French Revolutionary Wars ". At European Social Science History Conference (in Vienna).

〔図書〕(計 10 件)

1. 玉木俊明『物流は世界史をどう変えたのか』PHP 新書、2018 年。219

2. 玉木俊明『先生も知らない経済の世界史』日経プレミア新書、2017 年。205

3. 川分圭子・玉木俊明編『商業と異文化の接触 中世後期から近代におけるヨーロッパ国際商業の生成と展開』吉田書店、2017 年。xv, 897

4. 玉木俊明『歴史の見方 西洋史のリバイバル』創元社、2016 年。234

5. 玉木俊明『<情報>帝国の興亡 ソフトパワーの 500 年史』講談社現代新書、2016 年。213

6. 玉木俊明『先生も知らない世界史』日経プレミア新書、2016 年。227

7. 玉木俊明『ヨーロッパ覇権史』ちくま新書、2015 年。206, xvp

8. Yasushi Tanaka, Toshiaki Tamaki, Jari Ojala and Jari Eloranta (eds.), Comparing Post-War Japanese and Finnish Economies and Societies: Longitudinal Perspectives, London and New York, 2015. 253, vxi

9. 斯波照雄・玉木俊明編『北海・バルト海の商業世界』悠書館、2015 年。456, xix

10. 玉木俊明『海洋帝国興隆史 ヨーロッパ・海・近代世界システム』講談社選書メチエ、2014 年。250

## 6 . 研究組織

### (1) 研究代表者

玉木 俊明 (TAMAKI, Toshiaki)

京都産業大学・経済学部・教授

研究者番号：10288590